

## 【2年生普通科の取組①】フードロスに関する講話

2月3日（水）、北秋田市地域おこし協力隊移住コーディネーターの齋藤美奈子さんを講師に、フードロスに関する講話を開催し、2年生ゴミ対策班の希望者が受講しました。講師の齋藤さんは、地域おこし協力隊員として赴任する以前に海外で飲食業に携わった経験があり、レストラン・コンビニエンスストアで出る食品ロスの実態を紹介してくれました。

また、SDGsについて「世界の課題と考えるとスケールが大きくなってしまいが、地域の課題に置き換えて考え、身近なところから解決していくことが大切」と話してくれました。

この講話が実現したきっかけは、昨年12月の授業で、ゴミ対策4班が次年度の計画を話し合った際に「なぜ人は食べ物を残すのか」という話題が出たことです。これまで飲食業界で働いた経験のある齋藤さんに講師を依頼したところ、引き受けていただきました。今後も、各班が興味・関心を持ったことに対して、情報収集する機会を提供していきたいと思えます！



## 【生徒の感想】

「食品ロス」と「フードロス」で意味が違うのが驚きでした。また、先進国の中でも、最も相対的貧困が深刻なのも意外でした。食品ロスは、世界規模の課題ですが、地域の身近な課題でもあるので、食べ物を買いすぎない、買ったものは早めに食べるなど、微力でも貢献する意識を持っていこうと思いました。（ゴミ対策1班）

食品ロスといえば、食べ残しや作り過ぎなどを思い浮かべますが、それ以外にもコスト管理のために捨てなければいけないことを知りました。食品ロス削減のための取組も色々な活動をしていて、学校でできることがあるのではないかなと思いました。特にフードバンクという活動が気になりました。（ゴミ対策1班）

フードロスを無くすのは難しいが、食品ロスをなくしていく努力はできると思った。「地域課題」と捉えることで、身近に感じることができ、取り組みやすいと思ったが、その地域の特徴を理解してから解決策を考える必要がある。（ゴミ対策4班）

日本は豊かに見えて、日本の子どもは7人に1人が貧困ということを知り、豊かな国ではないと感じた。また、日本の食品ロスは年間612万トン、毎日132g、自分達1人からでていることを知り、これは今後の課題になると思った（ゴミ対策5班）

## 【2年生普通科の取組②】ゲートキーパー養成講座

2月10日(水)、2年生自殺対策班全員を対象に、秋田県「心はればれゲートキーパー」養成講座を受講しました。この講座は、6年前からスタートし、身近な人が発する危険サインに気づき、声をかけ、支援が必要ならつなぐ役割を担うボランティアを養成する、という目的で実施されています。当日は、この講座を担当する「秋田ふきのとう県民運動」の佐藤久男会長(写真上)のあいさつの後、北秋田保健所の保健師である熊谷政子さんが講師を務め、ゲートキーパーの目的や心得などを学びました。



### ★「ゲートキーパー」とは??

国が、自殺予防対策を進めるために養成を進めているボランティアの呼び名です。日本語訳すると「門の番人」、「自殺を考えている人の、最後の砦」という意味を含んでおり、次の4つの役割が求められます。

※「資格・免許・職業名」ではありません。

- ① **気づき**…家族や仲間の変化に気づいて、声をかける
- ② **傾聴**…人の気持ちを尊重し、耳を傾けて話を聞く
- ③ **つなぎ**…早めに専門家に相談するように促す
- ④ **見守り**…暖かく寄り添いながら、じっくりと見守る  
(「ゲートキーパー養成研修用テキスト」より)



### 【講話内容の一部】

#### ★高校生の皆さんへ ～友達から「つらい…」と打ち明けられたら～

- ・「つらい」という訴えは「助けて」というSOSです。
- ・話してくれたことに対して「ありがとう」と伝えよう
- ・真剣に、じっくり聞きましょう。(耳と目と心で「聴く」)
- ・相手の感情や訴えを否定しないようにしましょう。
- ・信頼できる大人につなぎましょう

### 【事前質問への回答】

- Q ゲートキーパーとして「自分のアプローチが原因で、その人が命を落としたら」と考えると、何もできないのですが…。
- A ゲートキーパーの役割の1つは「信頼できる大人や相談機関につなぐこと」です。「何かしないと」と考えなくても大丈夫。専門的なアプローチは医療従事者などの専門家が行います。